

前回の委員会における意見及びそれらへの対応方針等の整理

1 バイオマス資源の利用率についての達成状況などについて記載がないが、これはなぜか？

バイオマス資源の利用率についてはこの計画の公表後に策定されたバイオマスタウン構想に委ねられることとなっていたが、同構想の策定作業において整理した結果、一般廃棄物や下水道汚泥、家畜排泄物など法令で処理が定められているものが大半を占め、それらは概ねリサイクル処理されていることから、全体の利用率が90%以上という数字が出たことから利用率自体には目標を置かず、その質の向上に重点を置いたという事情を受け、本報告書でもその記載を省略していたが、その経過について記載するようにしたい。(資料7)

2 この報告書の内容からでは、どこまで達成されているのかといった評価材料に乏しい。目標値の達成に向けてどういった事業が予定されているのかなどの実実施計画が示されるべきである。

「物語実現のシナリオ」(資料3)として、将来構想的な推進ステップは示してはいるが、これからさらに一歩踏み込んだ(目標達成に向けた)具体的な工程表はできていないのが現状。また、計画策定時に想定していた評価手法としては、単純に目標値と結果値の比較において達成の進捗状況について判断するといったことが考えられていたが、指摘のとおりこれのみでは、評価の材料として乏しいことは否めない。

そこで、直ちに来年度以降の個別の目標達成にむけた具体の事業計画の構築作業を開始していくことも考えることはできるが、22年度に折り返し点としての計画の見直し作業が控えていることから、このタイミングで事業の積み上げを行っていったときに、来年の見直し作業で目標そのものが変わってしまい両者の整合性が後退する可能性もあり、できれば目標見直しと一体的に検討していくことが合理的である。また、例えばごみ処理については、新たな焼却施設の建設の問題など中核をなす施策について議論が進められているところであり、現状で具体の取組を提示していくことが困難であることなどの要因から、現状でできる限りの実施状況等に関する情報提供に努めながら、残りの2カ年については後半5年に向けてのペースづくりの期間としたい。

3 各目標値の総括コメントで市からの報告書であるにもかかわらず、自らの施策に対して「～必要となります」「～ほしいですね」「～求められます」など第三者的な表現であることが気になる。

指摘のとおりと考え、別添(資料7)のとおり修正することとしたい。

4 環境に取り組む人々のネットワークづくりを進めるべきである。各々がばらばらに取り組んでいるような感じで、相互に連携するような仕組みづくりが必要である。ぜひ、取り組んで欲しい。

本年度中に、具体的に立ち上げを目指したい。資料5参照。

5 計画の策定から評価システムまでまだまだ不完全な部分もあり、これから一歩一歩作り上げていく必要がある。

2の点も含めて、22年度の見直し作業のなかでこういった点についても合わせて修正していきたい。